

当院における心臓・血管カテーテル検査室での取り組み

◎萩原 風太¹⁾、浦山 直樹¹⁾、鈴木 駿輔¹⁾、石原 潤¹⁾、平松 直樹¹⁾
地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院¹⁾

【はじめに】2021年9月に厚生労働省医政局より「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について」が発出され心臓・血管カテーテル検査・治療において、臨床検査技師が指定の講習を受けることで医師の指示の下、血管内超音波検査や心電図検査、心腔内・血管内の血圧等の観察・測定等における直接侵襲を伴わない検査装置の操作を行うことは可能であるとなった。当院では1983年よりカテーテル業務に参画し、検査・治療の補助を行ってきた。その中で医師の負担の軽減、手技の効率化に貢献できたと考えられる取り組みを報告する。【心電図・血圧等のモニター観察】心臓・血管カテーテル検査・治療では冠動脈内に薬物の注入やデバイスの挿入を行う。冠攣縮性狭心症の誘発検査におけるエルゴノビン注入や、経皮的冠動脈形成術(PCI)時のバルーン・ステント拡張時などは冠動脈血流が遮断され急変のリスクがある。臨床検査技師はST変化、心拍数の増減、血圧の変化、動脈酸素飽和度などに注目し、有意な変化があれば素早く報告することで医師は手技に集中でき、負担軽減に貢献している。【血管内超音波】血管内超音波(IVUS)装置はPCIや下肢の経皮的血管形成術(PTA)の際に適切な治療の補助として活用している。IVUSの観察は医師と共に行うが、観察された画像から必要な情報を提供する事は臨床検査技師の業務である。医師から計測の指示が出る前に病変前後の内腔径および血管径の計測、病変長の計測、目印になり得る側枝のマーキング、180度以上の石灰化の有無、病変の性状等を観察し必要に応じて報告することで手技が滞ることなく進むことに貢献している。【記録用紙、リストの作成】冠血流予備量比や瞬時血流予備量比の測定は専用の記録用紙を作成し報告している。特に複数病変が存在する場合は、計測値の変化は複数回発生し結果が複雑になるため、記録用紙を残し提出する事は医師の負担軽減に貢献していると考えられる。また、デバイスに関する情報で医師からよく質問される項目はリストを作成し素早く対応している。当院ではキッキングバルーンテクニック(KBT)の際にバルーン径がどの程度になるかをリスト化し側枝と本幹の合流点にあたる冠動脈がKBTの拡張に耐えうるか素早く報告することで手技の効率化に貢献している。また当院で用いているステントを種類ごとにリスト化することで、医師が求める径と長さに対応しているステントを素早く提示することができる取り組みを行っている。その他リスト化しているものは各ガイドエクステンションカテーテル内に1ワイヤーまたは2ワイヤーでどのデバイスが入るかを一覧にしている。【その他カテーテルを用いた治療への参画】当院では大動脈弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、心房中隔欠損症、卵円孔開存症、左心耳閉鎖術などの構造的疾患に対して外科的またはカテーテルを用いた治療が行われており、検査技師はカテーテル治療の補助、医師の負担軽減を目的に参入している。手技中に心腔内圧の測定や経食道エコーの画像調整や機器操作を医師から求められた際に迅速に行う事で手技をスムーズに進めることに貢献している。開院時からカテーテル業務の補助を行い続けて来た事で医師の信頼を得ることができ、新しく始まった治療の補助を行って医師の負担を軽減できていることはタスク・シフト/シェアの推進に繋がり有意義であると考えられる。【結語】当院でのカテーテル室における取り組みを報告した。今後もカテーテル検査・治療において我々に求められていく業務は多様化していく事が予想される。その中で臨床検査技師に対応可能なことを模索しタスク・シフト/シェアの推進に貢献することが重要であると考えられる。

連絡先：地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院

電話番号：054-247-6111 内線 2244